ここがポイント
見取るポイントを決めて回る

4　机間指導の仕方

☆机間指導における留意点

生徒の質問を受けたり、生徒へ働きかけたりする場合には、特定の生徒にかかりきりにならず、クラス全体を見渡すことを忘れてはいけません。

また、生徒の思考を妨げたり、中断させたりするような指導は避けるようにしましょう。

☆机間指導を効果的に行うためには

生徒のノートやプリントの中に、思考過程が一目で分かるような工夫をしておくと良いでしょう。

例えば「問題に対する試行錯誤のプロセスを残しておくように促す」「グループ学習において、ほかの意見を通して学んだことや振り返りをまとめるように指示する」などが考えられます。

机間指導のねらい

机間指導は、何のためにするのでしょうか。

・生徒の学習状況が、学習のねらいを実現しているか観察するため。
・生徒一人ひとりの考えなどを理解し学習内容を評価し、個に応じた指導をするため。
・生徒の様子から、指示した内容や活動が適切であるか判断し、授業の改善に役立てるため。

このような理由が考えられます。授業は生徒の学びを支援するものですので、生徒の間に入って学びの様子を見取ることが大切です。

机間指導のポイント

限られた時間で実態を把握するために、あらかじめ「何を見取るのか」観察の視点を決めておき、計画的に回ります。

具体的に働きかけ、言葉を交わしてこそ、生徒の考えを広げ、深めることができ、生徒から新たな発見が得られます。

机間指導の活用

机間指導では、生徒一人ひとりの活動を見取ることにより、どんなところでつまずいているのかということが分かります。一人ひとりの問題点や、クラス全体の傾向を知り、個に応じた指導を随時行うことができます。

また、一人ひとりの良い点を見ることもできます。良い取組を全員の前で取り上げ、全体の指導に生かすことで、取り上げられた生徒は認められたと実感できるでしょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

学習が進んでいる生徒にも働きかけを！

机間指導というと、学習につまずきがあったり、遅れがちだったりする生徒の所で足が止まってしまうことが多いようです。

しかし、それだけでなく、発展的な課題を提示する、次の学習の方向を助言するなど、学習が進んでいる生徒に対する働きかけも大切にしましょう。

机間指導における関わり方

どのように生徒と関わればよいか、教員の役割をまとめます。

指導・助言
　つまずきがある場合、既習内容に立ち返らせて、適切な指導・助言を与えます。
　あらかじめつまずきを想定し、対処法を考えておくと効率的です。

ほめる
　「この考えは素晴らしいよ」などと声かけをすることで、教員に認められて、自信が生まれます。発言しない生徒も発言できるようになります。

思考の深まり
　生徒個々の考えを生かしながら、関連付ける手立てを与え、思考をつなげて深めます。特にグループ学習では、教員のファシリテーターとしての役割は重要となります。

コミュニケーション
　主体は生徒です。生徒同士の助け合い・話合いを促します。結果的に互いの良さを生徒同士で気付くことができます。

寄り添う　**つなげる**

広げる　**いかす**

ポイントづくり
　「これは～という意味かな？その考えは参考になるね」などのような言葉を周りに聞こえるように意識してつぶやくことで、生徒の気付きにつながったり、話合いの視点となったりします。

刺激
　思考を促したり、情報共有を促したりするきっかけとなります。また、気付きや考え方を広げることにつながります。

評価
　机間指導により、生徒の学習活動を多面的に評価することができます。観点別評価、指導過程の修正に役立てることができます。

改善
　観察・指導から、生徒の多様な発想・考えを見つけるとともに、課題に対する反応や理解度の実態を把握し、授業の組立てに役立てます。
　→「指導に生かす評価」
　　４章－２

☆グループ活動時の机間指導のコツ

　グループ活動においては、各グループの活動の様子を見極め、必要に応じた介入や働きかけをその場で行うことが大切です。
　介入、働きかけの例を挙げておきます。

・停滞状況に応じた活動のヒント提示等の支援
・活動の方向性の見取りと軌道修正
・グループの意見や主張に対する根拠の掘り下げ
・発展的な課題の提示
・あるグループの活動内容を全体に示しての共有

　こうした指導を通して、グループ活動の活性化や質の向上を目指しましょう。

学習活動に参加しようとしない生徒への対応

　学習活動に参加していない生徒を発見したら、どうしますか。参加していない理由を見きわめて、参加できるよう助言するために、生徒の様子を見守る、生徒に声をかける、周囲の生徒に働きかけるなど、様々な方法があります。
　また、グループ活動などでは、生徒自身が役割を自覚できるようにすることで、主体的な参加を促すことができます。「あなたは、質問する役割で参加してみましょう」「意見を言う人の良いところを探してあげてね」など、具体的な役割を机間指導でアドバイスすると良いでしょう。